

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 24 日現在

機関番号：47201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520200

研究課題名（和文） 朝鮮総督府の「国語」普及政策と教科書編纂について

研究課題名（英文） On the Chosen Governship Genera' s Policy of Propagating
"Japanese as a first Language" and its Textbook Compilation

研究代表者 長澤 雅春 (NAGASAWA MASAHARU)

佐賀女子短期大学 キャリアデザイン学科 教授

研究者番号：00310920

研究成果の概要（和文）：

本研究では、2つの側面からのアプローチを図った。1つは、教科書編纂に関するもので、韓国内図書館を中心に併合下の朝鮮で発行された教科書及び教授書の資料収集と関連書籍の収集である。とくに、『普通学校修身書』の本文の改訂に注目して、改訂前と後との異同について検討した。2つ目は、朝鮮教育下の子たちが成長してどれほどの国語能力を身につけたかである。そのために、朝鮮映画が描く朝鮮人青年の有り様、また朝鮮近代文学の若き担い手などの内面を探ってみた。

研究成果の概要（英文）：

This research approached the subject from two directions. The first examines the editing of textbooks from collections of teaching manuals, textbooks and other related materials held in libraries in Korea. Especially, this approach looks at revisions made to 'moral training manuals from general schools', and the differences seen before and after those revisions. The second approach examines how far children's Japanese language improved under the Chosen education system. To gain insight into this, research focused on the portrayal of Chosen young people in contemporary film, and on the inner minds of the new generation of authors as seen in Chosen literature of the modern period.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：日本近代文学、日本語教育

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：朝鮮総督府、朝鮮教育、日本語教育、国語教育、教科書、植民地、朝鮮

1. 研究開始当初の背景

(1)長澤は日本語のネイティブスピーカーとして韓国の仁済大学に勤務した(95～98年)期間に、大学図書館を含め韓国内の図書館において朝鮮総督府発行の普通学校教科書を

中心に複写収集を行った。『日語読本』『国語読本』『修身書』『編纂趣意書』など朝鮮総督府発行の朝鮮教育関連資料を帰国後も収集し続けその冊数はかなりの量となっている。
(2)近代朝鮮の開化期から植民地期までの教

育思想研究の成果については、尹健次氏『朝鮮近代教育の思想と運動』(1982)を嚆矢として以後、近年の東アジアを席卷したポストコロニアル研究の隆盛によって、朝鮮教育研究は台湾教育・満州教育に先行する旧占領地の教育制度研究として着実な成果を挙げつつある。とくに、朝鮮教育制度は台湾や満州の教育制度の範となったために、その実体的な解明は日本の占領政策研究・言語政策研究にとって格別の意味をなすものである。

(3) 併合下の朝鮮教育研究は韓国において国内より歴史をもつ。孫仁銖氏『韓国近代教育史』(1971)をおそらく嚆矢として、孫氏には80年代に入って『韓国開化教育研究』(1980)『韓国近代民族教育の理念研究』(1988)等多数の朝鮮教育の研究成果があり、また李元浩氏『開化期教育政策史』(1983)、鄭在哲氏『日帝の對韓国植民地教育政策史』(1985)、朴鵬培氏『韓国国語教育史全史 上中下』(1987~1997)、劉奉鎬氏『韓国教育課程史研究』(1992)、오성철氏『植民地初等教育の形成』(2000)等この分野にたいする研究は、学位論文も含めてポストコロニアルの潮流とは無縁に80年代に多くの研究成果が提出された。当然のことだが、これら韓国側での研究には朝鮮教育制度における「民族抹殺」のイデオロギー性への糾弾が予定調和としてある。

2. 研究の目的

(1) 韓国内における、朝鮮総督府の朝鮮教育を民族抹殺イデオロギーとする予定調和的な研究成果を受けて、教科書内容の有り方として実際にはどのようなものであったか、編纂趣意と編纂意図はどうであったか、という細部について、朝鮮総督府編纂教科書を中心として検証を試みる必要を感じた。

(2) またそれだけでなく、そのような朝鮮教育を受容した子どもらが、青年となってどのような内面を獲得したのか、ということも本研究の重要な課題として考えた。これは国語教育を受容した後の青年たちが、日本語文学やプロレタリア文学運動の担い手となる過程にどのように関連づけることができるものなのか、という点である。もちろん、これは文学だけでなく、映画製作の過程においても同様で、とくに高等教育を受けた主人公となる青年が自暴自棄となるというパターンは、朝鮮教育の政策に関連があるものと思われる。

3. 研究の方法

(1) 併合下の朝鮮教育をその政策と思想から検討する際において重要となるのは、実際に教科書編纂がどのような思想のもとに行われ、それがどのような教授法によって教室展開されたかを一次資料によって検討することである。また、日韓併合後、3・1独立運動

後、内鮮一体スローガン後、などの時代状況に教科書がどのように対応しようとしたか、そのためにいかなる意図によって編纂・改訂がなされたかを知ることは、朝鮮総督府の国語普及政策の実際を知るうえで重要な作業だと考えている。

(2) 『普通学校国語読本』『普通学校修身書』は併合期から敗戦までの間を5度にわたって大小含めた改訂がされている。両教科書は内容的・思想的にも相互補完的な位置にあるもので、朝鮮教育の根幹をなすものであるが、内地国定教科書との比較を含めると挿絵、本文、表記法ともに改訂がなされている。こうした点に注目することは、「朝鮮教育は民族抹殺を目指したもの」だと予定調和的に結論づける韓国側の研究方法とは検証の仕方を異にするものである。

(3) 朝鮮教育下に成長した若者が、朝鮮総督府行政下にどのような現実直面していたか、も重要な検討課題だと考える。これについては本課題の本流から逸れるきらいもあるが、本研究に厚みをもたらすものだと考え、考察を加えてきた。①『京城日報』に掲載される社会事件や教育関連記事の検索リスト作成、②朝鮮映画のシナリオの検証(『アリラン』など)、③昭和10年代朝鮮近代文学(プロレタリア文学・転向・日本語文学)者の同化意識、などについて検討を加えてみた。

4. 研究成果

(1) 韓国国立中央図書館及び釜山広域市市民図書館を中心に、朝鮮総督府による朝鮮教育の思想や教育行政を窺うことができる資料収集を行ってきた。朝鮮教育雑誌『文教の朝鮮』(大正14~昭和17)、朝鮮総督府文書課発行『朝鮮』(大正11~昭和17)は、齋藤実総督以下の朝鮮教育の全体像を俯瞰するうえでも重要な雑誌となっている。また、朝鮮教育に携わる官僚はそれぞれ己の朝鮮教育観を記述しているが、第1次朝鮮教育令期の『朝鮮教育論』(幣原坦)『朝鮮教育の沿革』(朝鮮総督府)、第2次朝鮮教育令への転換期の『朝鮮の教育』(弓削幸太郎)、第2次教育令施行後の『朝鮮教育制度史』(小田省吾)、満州事変後の『朝鮮教育の側面』(渡邊豊日子)などは朝鮮教育制度の背後にある学務官僚の時系列的な思想について知ることができる。これらを学務課が編纂する『朝鮮教育要覽』等総督府発行本と併せれば、政策的朝鮮教育のありように接近することができる。『文教の朝鮮』巻末に毎号記載される無数の朝鮮人教育者にたいする功労表彰は、朝鮮教育は実質的に多くの朝鮮人教師に頼ることで行われていたことを物語る。つまり、教科書編纂は、日本語をネイティブとしない多くの朝鮮人教師の使用に耐えうることを前提として編纂されなければならないことになる。

(2)『普通學校用假名遣法・普通學校用送假名法』(総督府発行、大正2)を手引きに、大韓帝国学部編纂『日語讀本』(8巻、光武11~隆熙2)、『普通學校學徒用日語讀本』(8巻、光武11~隆熙2)、朝鮮教科書I期『國語讀本』(8巻大1~大4)、II期『普通學校國語讀本』(8巻、大12~13)、III期『普通學校國語讀本』(12巻、昭5~昭10)の文字表記について検討してみた。文字表記については、たとえば、朝鮮総督府本は助詞「〜へ」を「〜え」と表記してこの部分については歴史的仮名遣いを排除するが、大正2年版台湾総督府編纂『公學校用国民読本』はすべからず口語表記化しており、植民地教育現場での仮名遣い表記の思想を伺えるものである。

(3)第1期発行『修身書』(4巻大4~)と第2期発行(4巻大7~)教科書の異同調査を行った。この第1期本と第2期本はほぼ同じ科目によって構成されているが、第1期本は、併合(1910)と朝鮮教育令(1911)を受けた急ごしらえの編纂によるものであるため、第2期本では状況に鑑みて修正の必要があった。そこにどのような修正がなされたのかを、仮名遣いや送り仮名、そして文の修正について調査してみた。その修正項目について以下に概略すれば、①送り仮名の変更、②活字体の変更、③皇室への尊敬語の強化、④句読点の変更、⑤語句の変更、⑥語句をより口語化、⑦指示語の明確化、⑧敬語の修正、⑨促音便を小文字から大文字化、⑩誤植の訂正、⑪助詞の変更、⑫文語表現の口語化、⑬連用形を促音化させて口語化させる、⑭読点の加点、といった点が挙げられる。この中で修正箇所が顕著に見受けられるものは、⑥⑫⑬など口語表現への修正である。ここには教科書編纂に携わる学務課の「口語表現化への意思」を窺うことができるだろう。とはいえ、修正箇所のすべてが必ずしも効果的であるというわけではなく、後退したと思われるものも少なくなく、修正が必要であったかどうか判断に苦しむものもある。そして、『修身書』を『国語讀本』と比較すると、同学年使用本であっても、『国語讀本』は名詞・助詞・用言での分かち書きがなされているものの、『修身書』ではそのようなことはなく、また一気に内容も高度となる。これについてはさらに検討しなくてはならない。

以上、(1)~(3)までは、資料がかなりの分量になるため、これらを精査することはできなかったが、さらに時間をかけて検討を加えていくこととする。

(4)朝鮮教育下の児童たちが青年となって自立していくとき、かれらには立身出世という将来の希望にかなりの制限がくわえられていた。1920年代以後の朝鮮映画で描かれる青年像は、将来に希望を持たない若者の姿だ。また、映画製作に携わる若者たちも朝鮮教育

下の高等教育を身につけた者たちであるが、かれらの将来は保障されたものではない。新聞記者、映画製作者、文学者らに共通するのは、高等教育を受けているものの、将来に立ちほだかる「植民地の子」という宿命である。併合下の朝鮮映画については、1965年春秋社より刊行された安鍾和『韓国映画側面秘史』の翻訳を終えたので、これを今年度内に刊行することになった。いまだ日本では知られていない朝鮮映画の全体像が、これによってあきらかになると考えている。

(4)朝鮮の青年たちの文学志向は、日本国内のそれとさほど変わるものではなく、多くの文芸雑誌が刊行された。しかし満州事変以後は徐々に日本語使用が強化され、文芸雑誌の掲載も日本語であることが強要されてくる。日本語を使用できる文学青年たちの内面は野心と自虐の狭間でさいなまれ、プロレタリア芸術運動家であったとしても、転向の後に親日文学者としての道を選択する場合が少なくない。朝鮮語か国語かという選択肢を国語で思考していくのである。そうした若者たちの内面もまた、朝鮮教育の問題として考えることができるのではないかと考える。国際日本文化研究センター内に催された研究会での報告は、そのような視点からのものである。これについても、共同研究として刊行される予定である。

(5)長澤が複写入手した①朝鮮総督府発行教科書及び関連資料のリスト一覧、②教科書の一部テキスト化、③韓国国立中央図書館蔵日帝期和書目録と釜山広域市立市民図書館蔵日帝期和書目録のデータベース化。これらを「近代日本と韓国・朝鮮半島」として長澤の研究サイトで公開している。また本サイトは、国立国会図書館関西館アジア情報室、東京大学東洋文化研究所「近代朝鮮関係書籍データベース」等にリンクされてサイト内のデータは利用されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 長澤雅春「併合下の朝鮮映画作品年表」
佐賀女子短期大学研究紀要 46 集 査読無
2012, P77~p90

〔学会発表〕(計4件)

- ① 長澤雅春「併合下の朝鮮映画と日本—安鍾和著『韓国映画側面秘史』を読む—」
九州大学韓国研究センター主催国際シンポジウム 2009.12.20 九州大学
- ② 長澤雅春「親日朝鮮文学と日本浪漫派—崔戴瑞『転換期の朝鮮文学』から」(国際日本文化研究センター日本浪漫派とアジア研究班例会 2010.11.27 国際日本文化

- 研究センター)
③ 長澤雅春「朝鮮教育下の朝鮮文学—転換期の朝鮮文学の動向とイロニー—」蓮田善明研究会、2012. 2. 11、熊本学園大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
近代日本と韓国・朝鮮半島
<http://swjc.saga-wjc.ac.jp/~nagasawa/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長澤 雅春 (NAGASAWA MASAHARU)
佐賀女子短期大学
キャリアデザイン学科
教授
研究者番号：00310920